

1 対象機関の概要

所在地 〒761-0793
香川県木田郡三木町大字池戸1750-1

開学 昭和53年10月

学部 医学部（医学科・看護学科）

学生数

医学科	入学定員90人（現員592人） 3年次編入5人（予定）
看護学科	入学定員60人（現員254人） 3年次編入10人

教職員数

学長	1人	副学長	2人	事務局	197人
医学部	199人（教員175人）				
医学部附属病院	487人（教員98人）				

卒業者数

医学科	1,506人	看護学科	123人
-----	--------	------	------

国家試験合格状況

医師	93.9%（第95回）	看護婦	96.2%（第90回）
保健婦	91.5%（第87回）		

環境

「瀬戸の都」と呼ばれる高松市の東南部に隣接し、南には遠く阿讃の山並を望み、北には源平の古戦場屋島と風光明媚な瀬戸内海を配した景勝と閑静な丘陵に位置しており、絶好の教育研究環境に恵まれている。

沿革

昭和53年10月	開学
昭和55年4月	開講
昭和58年10月	医学部附属病院の診療開始
昭和61年4月	大学院医学研究科の設置
平成8年4月	看護学科の併設
平成12年4月	大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）の設置

建学の基本理念

- 1 世界に通ずる医学及び看護学の教育研究を目指す。
- 2 人間性の豊かな医療人並びに医学及び看護学の研究者を養成する。
- 3 医学及び看護学の進歩、人類の福祉、更に地域医療の向上に貢献する。

土地及び建物

土地226,374m² 建物延面積93,937m²

国際交流協定締結大学 3大学

平成12年度歳入歳出額

歳入 102億円 歳出 152億円

ホ - ムベ - ジ <http://www.kms.ac.jp>

2 教養教育に関する考え方

本学では単科医科大学の特徴を活かし、また人間性豊かな、良き医療人・研究者を養成するために、教養教育と専門・職業教育との有機的連携に配慮した一貫教育を推進してきた。さらに学部教育は大学院教育とも連携し10年（医学科）または6年（看護学科）の一貫教育と捉え、高いレベルでの人間性の涵養と、より深い教養と医学・医療の知識を養えるように、教養教育のカリキュラムの充実を図っている。また実際の教育担当者も教養、基礎、臨床、医療従事者を含めた大学構成員が全体で担当している。

現在の教養教育の授業科目はその目的に応じて、幅広く深い教養を獲得する科目、さらに高度な医学・医療の専門知識を得るための基礎となる科目、一部の専門科目、将来に医療人・研究者となるために必要な意識を高揚するアーリーイクスポ・ジャー等から構成されている。さらに国際的に活躍できる医療人・研究者の育成のために、外国語教育の充実を図るとともに、国際交流協定締結大学等に学部学生を派遣することで実地の訓練を行っている。また生涯を通じての心身の健康保持のため、基礎スポーツ医学の教育と実習が行われている。

基本方針は変更されていないが、カリキュラムの実際の運用面では、修正が加えられている。

現在のカリキュラムの特徴は、以下のとおりである。

- 1 チュートリアルシステムを導入している。
- 2 早期体験学習を開講し、医学に対してモチベーションを高め、更に保健・福祉・看護・介護にわたる包括的な教育を行うことで医師の立場を理解させている。
- 3 英語教育などで少人数教育を実施している。
- 4 日常の研究及び医療の実際を体得させる目的で全教室に学生を配属させる課題実習を開講した。
- 5 情報化社会に対応するため、コンピューター教育の充実を図っている。
- 6 統合型の基礎医学教育を導入している。
- 7 県内の国立私立を含む5大学や放送大学との単位互換や認定を行い、教養教育の充実を行っている。
- 8 看護学科では、学生の人格形成にとって必要な科目群として「人間科学」「健康科学」「環境保健科学」「外国語」「保健体育」などを設定し、科目構成は看護概念枠組みの構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」の各々の理解にとって必要な科目を抽出し構築した。

このように時代の要請に合わせた変更を積極的に行い、幅広い教養及び総合的判断力を養い、豊かな人間性を涵養するよう適切な配慮を行っている。

3 教養教育の目的及び目標

目的

本学は昭和53年10月に単科医科大学として開学し、昭和61年に大学院医学研究科を、また平成8年に看護学科を、さらに平成12年には大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）を併設し、総合医科大学として発展を遂げてきた。

学生の定員は医学科は1学年の定員が95名（うち5名は3年次編入予定）で現員は592名、看護学科は70名（うち10名は3年次編入学定員）で現員が254名である。また大学院は博士課程は1学年の定員が30名で現員は115名、修士課程は16名で現員は29名である。

教職員数は約900名（うち教員約280名）で総数は約1,900名の規模の大学である。

その建学の基本理念は学則第1条に次のとおり規定している。

「本学は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、医学並びに看護学の理論及び応用を教授研究し、人間性に対する深い思索と医学・医術及び看護学における創造的知性豊かな臨床医及び医学研究者並びに看護職者及び看護学研究者を育成することを目的とし、併せて医学及び看護学の進展、国民の健康増進及び社会福祉に貢献するとともに地域医療の向上に寄与することを使命とする。」

これまでに医学科は1500名余、看護学科は約120名の卒業生を世に送り医学・医療の分野での人材育成に貢献している。

建学当初の基本理念は約20年を経過した現在もその重要性がますます認識されているが、さらに時代の要請もあり、地域性も考慮した新しい視点で本学の理念を再評価し、現状に適合し、21世紀にふさわしい実践的理念の策定が行われ、従来のものに加えて下記の3点がスローガンとして掲げられている。

- 1 世界に通ずる医学の教育研究を目指す（讃岐の丘から世界に発信）
- 2 人間性に対する思索を基調とした「人間性の医療」の確立（讃岐の丘を人間形成の場に）
- 3 地域医療の向上と医療の進歩・人類の福祉に貢献（讃岐に広がる医療ネットワーク）

さらにより具体的な本学が目指す医療人・研究者の養成について次のことが考えられる。

つまり、本学が目指す医療人・研究者とは、

- 1 患者中心の医療ができる。
- 2 広い視野と高い見識を持っている。
- 3 社会的責任を自覚している。

- 4 高い倫理性を備えている。
- 5 人間性が豊かである。
- 6 生涯学習を行い、先端的研究ができる。
- 7 チーム医療ができる。

これらを兼ね備えた「期待される医療人・研究者」の養成を目的としている。その目的達成のために、本学においては教養教育と専門教育との有機的連携に配慮した一貫教育を推進してきた。全人格的な教養教育は医療人・研究者が、臓器や組織・細胞あるいは疾病のみを対象としているのではなく、人間全体を対象としている視点から考えられなければならない。

このような視点から、本学の医学科の教養教育カリキュラムには、人間の心身の構造と機能を理解するうえで必要な、自然科学（生物学、化学、物理学、数学）が設けられている。

また総合人間学が開講されており、その中には、幅広い教養を身に付けるため、人文社会科学や各分野で活躍している方々を招聘し、講義をして頂く、教養特別講義を含んだコミュニケーション学がある。

更に健全な心身について学ぶために心身科学が設けられ、医学心理学や基礎スポーツ医学・実習が含まれている。高い倫理性を身に付けるため、早期医学に医学概論が、また2年次では自主研究が設けられ、医の倫理に関する講義や自主研究が行われている。

一方、医療人・研究者には生涯学習が求められており、自ら問題点を見つけ出し、それらについて自ら学習し、問題を解決をする、自学自習の学習法を身に付けるため、早期体験学習にチュートリアル教育が取り入れられている。

医療人には、保健・福祉・看護・介護に対する基本的知識・技術が求められており、それを修得するため総合保健福祉医療学が設けられている。

情報化社会に対応するため、コミュニケーション学に情報科学が設けられている。国際的な医療人を養成するため、総合人間学には英語及びドイツ語が設けられ、また、学際医学には医学英語、臨床英語が設けられている。更に1年次には全員に、国際的検定試験であるTOEICを受験することが課せられている。

これらを通じて幅広い教養の修得、健全な心身についての知識の修得、高い倫理性の修得、生涯自己学習の習慣づけ、保健・福祉・看護・介護に関する基本的知識・技術の修得、ITを用いた情報収集技術の修得、国際化に対応できる語学力の向上、等の成果が期待される。これらの事を修得することで、社会のニーズである「期待される医療人・研究者」としての基礎が築かれるものと思われる。

次に看護学科では、以下の方針で教育を行っている。

医療技術の急速な進歩は、医療内容を著しく高度化

し、専門細分化させており、看護職の質的向上を図ることが不可欠である。豊かな人間性を備え、高度の看護学の知識及び優れた看護技術を有する看護専門職及びそのような看護専門職を養成するために必要な高度な看護学の知識と技術を教授できる看護学教育者及び看護学研究者の養成が要求されている。

このような状況を踏まえて、看護学科では「生命の尊重を基本として、人間に対する高い倫理性と深い思索力によって、近年の医学・医療・福祉の進展に柔軟に対応できる科学的判断力と技術を備えた看護専門職になり得る人材の育成を目指し、もって社会の保健・医療・福祉の充実発展に寄与する。」を基本理念として掲げている。

教育課程編成にあたっては、基本理念に基づいた教育目標を策定し、この基本理念と教育目標を達成しうる教育課程の編成を行った。

ジェネラリストとしての看護専門職者の育成と同時に、大学院修士課程の教育課程にも運動できる学力の育成を目指すこととし、カリキュラム構築の枠組みとして、「人間の成長と発達の過程」を主軸にし、併せて、その主軸に沿って看護を構成する人間、環境、健康、看護とこれらに関連性について学習できるよう「看護の概念枠組み」を採用した。

カリキュラムの構築は、「支持科目」と「専門科目」に分けて行った。支持科目は、「人間科学」、「健康科学」、「環境保健科学」及び「外国語」、「保健体育」によって構成した。「支持科目」は、さらに「科学的思考の基盤」となる、あるいは「人間と人間生活の理解」を深める「基礎分野」（いわゆる教養教育）と「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「社会保障制度と生活者の健康」からなる「専門基礎分野」に大別できる。

すなわち「人間科学」、「健康科学」、「環境保健科学」は、専門科目である看護学の支持科目群であると同時に、学生の人格形成にとって必要な科目群として構築した。なお、これらの3つの科目群は、看護の概念枠組みの構成要素である人間、環境、健康、看護の各々の理解にとって必要な科目を抽出し、それらの重複、欠落を調整して構築した。

看護学科における教養教育の特色は、次のとおりである。

- 1 看護の対象である個人及び集団を多面的・統合的に把握し、それらに応じた看護活動を展開できるよう、生理的側面のみならず精神・心理的・社会的側面に関する学習を促進するために「心理学概説」、「発達心理学」、「臨床心理学」、「家族社会学」、「地域社会学」、「社会心理学」を開設した。
- 2 これからの看護職者に必要な情報・統計処理能力

を養うための授業科目「情報科学」、「データとデータ解析」を開設した。

- 3 看護活動を通して国際交流、国際貢献を果たしうる人材の育成を目指すことができるよう英語、ドイツ語、中国語を開講し、さらに「看護英語」、「国際保健医療」などを開設した。
- 4 「体育」は、運動実技を通して身体の機能に気づき、心身の健康を増進させる技術を修得する科目として構築した。

目標

目的で示された意図を実現するために設定された具体的な課題として下記の事項を目標としている。

- 1 医学教育の基礎と成る自然科学の幅広い知識を修得する。
- 2 幅広い教養を修得する。
- 3 課題探求能力を修得する。
- 4 健全な心身に関する知識・技術を修得する。
- 5 高い倫理性を修得する。
- 6 生涯自己学習習慣を修得する。
- 7 保健・福祉・看護・介護に関する基本的知識・技術を修得する。
- 8 ITを用いた情報収集技術を修得する。
- 9 国際化に対応できる語学力を修得する。
- 10 他の人々とチームワークを組むことができる協調性を修得する。

看護学科では目的に掲げた基本理念に基づき、教養教育では次の基礎的能力を育成することを目標としている。

- 1 人間や環境について幅広い知識を修得する。
- 2 課題の発見解決の基本的知識や技術を修得する。
- 3 さまざまな状況を批判的に分析し、建設的・創造的に変革・発展させる能力を修得する。
- 4 健康で文化的な社会生活を送る上での基本的知識と技能を修得する。
- 5 メディアリテラシーの向上を養う。
- 6 外国語によるコミュニケーションを高め、国際交流並びに国際貢献できる能力を修得する。

4 教養教育に関する取組

(1) 実施体制

運営組織と活動内容

教育担当副学長を委員長とする教務委員会が中心となって運営を行っている。本委員会は全学から選考された10名前後の教員で構成されており、教務全般にわたって審議が行われる。その下部組織として、各学科や科目の教員会議が構成され、教務委員会の審議事項についての提案や原案作成が行われている。教務委員会の審議事項は最終的には教授会で審議され決定される。

さらに教務委員会の下に、重点的に審議、改革する必要がある場合は、暫定的に専門委員会やワーキンググループ(WG)が設置され、問題解決を図るようにしている。現在(平成13年度)に設置されている委員会としてはカリキュラム専門委員会、チュートリアル専門委員会、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会である。またWGとしては早期体験学習WG、授業評価WG、シラバス改革WG、看護学科カリキュラムWG等である。

各委員会及びWGの活動を以下に説明する。

教務委員会は、教科課程についての基準及び、それに基づく教育方針について立案し、その円滑な実施を図ることを目的とする。

本委員会は次の各号を審議する(一部抜粋)。

- 1 教育課程の編成及び履修方法に関する事項
- 2 学生の進級及び卒業に関する事項
- 3 学生の休学、復学、退学、転学、留学及び除籍に関する事項
- 4 学生の賞罰に関する事項
- 5 その他教育課程並びに医学及び看護学の教育に関する事項等である。

カリキュラム専門委員会は平成12年1月に完成した新カリキュラムの未解決部分や運用上の問題点を明らかにすると同時に、実際の運用を行っている。

チュートリアル専門委員会は開始したばかりのチュートリアル教育を円滑に進行していくために設置された。その活動は、課題の設定、チューターやリソースパースンの決定、教育の実際、学生の授業評価の実施とその集計、等である。

早期体験学習WGは医療・保健・福祉・看護・介護にわたり包括的な教育、実習を行うが、これをオーガナイズするために設置された。

シラバス改革WGは従来のシラバスの問題点を指摘し改良を図ると同時に、統一性をもたせるため、講習を行いより良いシラバスの改善につとめている。

看護学科カリキュラムWGでは平成12年度に学年進行が終了したのでカリキュラム全体の見直しを行い、平成14年度からの新カリキュラム移行に向けて精力的に活動を行っている。

授業評価WGとファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会については後述する。

学生による授業評価

平成8年度に「香川医科大学医学教育に関する評価」のアンケート用紙が教員の自己採点用と学生用のものが作成され、各教官の授業評価が行われている。集計は各教員が行っており、その後の授業の参考にしている。しかし全学的な集計や評価委員会は設置されていない。そのため授業評価WGが設置され、授業評価をより詳細に行うために評価項目を分類している。またその評価をどのように集計し、フィードバックするかについて、検討を行っている。

一方、新しい概念を取り入れ、新カリキュラムに加わった早期体験学習やチュートリアル教育では、授業形態が異なるため、別の評価用のアンケートを作成し、各授業時間ごとにアンケートを行い、専門委員会やWGで集計、評価を行う一方で、教務委員会に報告し、次年度の実施の改良等の資料として活用している。

なお今回のカリキュラム改正では平成9年度に「教育カリキュラムに関するアンケート」を教員及び学生に行い、平成11年1月より平成12年1月にかけて行われたカリキュラム改正に学生の意見も反映させている。

FD等の授業改善の諸施策

医学教育の改善をめざし、本学の理念、目標や教育内容、方法について組織的な研修を実施することでその成果をあげるために、FD専門委員会が設置され、年間数回の医学教育ワークショップを合宿形式で開催している。なお授業を担当する教員の全員に最低一度の出席を義務付けている。

ワークショップはタスクフォースとして学外から数名の講師を招き、学内からの数名の経験者を加え、20~30名の参加者により2日間で行っている。

一般目標は、適切な医学教育を推進するために教員の教育への感心を深め、望ましい学習カリキュラムの開発をする能力を修得することである。また行動目標としては、以下が掲げられている。教育原理のあり方の理解、研修プログラムの立案、効果的な学習方略の作成、教育評価の原則と評価方法の実際、教育改善への取り組み等をどのように行うかである。これらを効率的に行う方法の解説と、具体化の実際をスモールグループで行い、評価を受ける。このワークショップの成果は、シラバスの改善、授業形態の改良、授業評価の変化、等にあらわれている。

(2) 教育課程の編成及び履修状況

基本方針

編成上の基本方針は、単科医科大学の特徴を活かし、また良き医療人・研究者を養成するために、教養教育と専門・職業教育との有機的連携に配慮した6年又は4年一貫教育である。幅広い教養と総合的判断力を有した医療人・研究者を養成することが開学以来の教養教育の基本方針である。

しかし、急速に時代が進歩し、流動性を高めている現代において、時代の要請に大学教育がどのように適切に対応していくかが、問われている。本学では柔軟性を持って対応していくことで個性輝く大学を創ることができると考え、その時々にはふさわしい教養教育のカリキュラム改正を行ってきた。

今回のカリキュラム改正は、前回の大綱化に伴う平成5年度の改正の以降に明らかになった問題点を考慮して、以下の点を中心に行われた。

- 1 課題探究能力の育成を目指した教育体制を構築した。
- 2 全人的医療と社会的使命を達成できる医療人の養成を目指した教育体制を構築した。
- 3 入学学生の学力の均一化をはかる講義を導入した。
- 4 専門科目の前倒しによって生じた弊害を解消するための一般教養科目を充実する。
- 5 アーリーイクスプोजチャーの一環として、早期に医学・医療にふれる授業内容を構築した。
- 6 国際的な医療人・研究者として十分に通用する教育プログラムを構築した。
- 7 情報リテラシーに対応するようなコンピューターオリエンテッドな教育を実施した。

授業科目の区分と内容

医学科は自然科学、心身医学、総合人間学、早期医学、総合保健福祉医療学と区分できる。看護学科は支持科目という名称で教養教育を行っており、その区分は人間科学、環境保健科学、健康科学、外国語、保健体育である。

一般教養教育の授業科目区分は自然科学、心身科学、総合人間学（医学科）、人間科学、外国語、保健体育（看護学科）である。

一般教養的内容と専門的内容をあわせ持つ授業科目は心身医学、早期医学、総合保健福祉医療学（医学科）環境保健科学、健康科学（看護学科）である。

教養課程で実施している専門教育の内容の授業科目は生命科学、課題実習（医学科）である。

1 医学科

医学科において自然科学のカリキュラムは次の3点を考慮して、授業科目等が構成された。

- (1) 大学入学時における学力の不均一を是正する授業を設定する（自然科学入門）。
- (2) 教養課程の自然科学レベルの講義と実習（必修として物理学、化学、生物科学の各I,II,自然科学実習、数学、同演習、分子生物学入門からなる）。
- (3) 現代の学問の進歩や先端研究の内容を教授する応用コース（選択として、現代物理学の応用、生物物理学入門、生体物質の科学、生体機能の化学、神経生物学、応用生物科学、応用数学、科学表現論を開講）。

この中で、自然科学実習は従来、物理学、化学、生物学と分かれて行われていたが、統合した基礎的な共通部分と、より進歩したアドバンスドコースを設けた。新設の科学表現論では研究をどのように計画進行していくか、またその結果を学会や論文でどのように発表するかを具体例を学ぶ。

心身科学は医学心理学、基礎スポーツ医学の講義と実習からなる。教養課程の心理学、又は保健体育に加えて、より医学的な分野を加えて、教育を行っている。これらは将来、精神神経科学やスポーツ医学と密接な関連を有する。

総合人間学は人文社会科学とコミュニケーション学からなる。人文社会科学は哲学、倫理学、芸術学、歴史学、法学、政治学、経済学、社会学より構成されている。幅広い教養と総合的判断力を有する人材育成を目標として開講されている。また香川県内5大学との単位互換や放送大学取得単位認定を行うことで学生の受講の可能性を広げる努力をしている。

コミュニケーション学は英語、ドイツ語、コミュニケーション論、統計学、情報科学、教養特別講義等からなる。国際的な医療人・研究者の育成のためには外国語は必須である。そのためにコミュニケーション能力や外国文化の理解を中心に教育が行われている。情報科学はコンピューターを実際に用いて、どのように情報を獲得し、また発信するかを目的としている。

教養特別講義はオムニバス形式で医学分野以外の社会で実際に活躍されている方々を招聘し、各分野における諸々の問題について講義を行っている。

早期医学は医学概論、早期体験学習、生命科学講義、課題実習からなる。医学概論では、本学においては、単に疾病を治療するだけの医療人及び研究者の養成ではなく、高い倫理性と社会的使命を自覚した医療人及び研究者の養成を目標として教育する。早期体験学習では、アーリーイクスプोजチャーの一環として、教養課程の履修中に医学医療に触れることを目的に新設された科目である。附属病院の見学や、臨床各科による講義、チュートリアル教育入門と解剖学実習入門から構成されている。生命科学講義は従来の講座型の講義

を変更し、臓器または主題設定を行い、これらを中心に各専門分野の教員が講義に参加する統合型講義を導入している。課題実習では学生は全学の講座や教室などに1名から数名が配属され、2年次の2、3学期の午後に研究や臨床の実際を見学、実習、実験する。このことで学生の医学、医療に対するモチベーションを高めることを目標としている。

総合保健福祉医療学では保健医療福祉看護・介護論、少子高齢化社会の保健医療福祉、保健指導・心理行動科学、臨床心理/家族・チームケア、ボランティア体験学習等から構成される。

2 看護学

人間科学では幅広い教養を身につける教養科目を中心に構成がなされている。その授業科目等は、人間の生物学、生物有機化学、看護物理学、情報科学、データとデータ解析、心理学概説、発達心理学、臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション・カウンセリング、哲学・倫理学、文学と人間、等よりなる。従来の自然科学系の講義に加えて、時代に即応してコンピューターを使った情報処理系の教育を取り入れている。また各種の心理学の講義を教養課程で行っているのも特徴の1つである。

外国語は国際的な医療人・研究者養成のためにカリキュラムを編成し、教養課程のみならず、4年次にまでわたって開講している。その授業科目等は英語、看護英語、英会話、ドイツ語、中国語である。専門性の高い英語能力の養成と、第2、第3の外国語としてドイツ語と中国語の講義を行っている。

保健体育では実技を中心とした体力の養成を行っている。

環境保健科学では、従来の教養教育の人文社会科学系の授業と、環境、保健、福祉に関する科目からなる。その授業科目等は現代国際政治、経済学概説、家族社会学、地域社会学、文化人類学、法学（日本国憲法を含む）、歴史と人間、環境生態学、環境保健学、疫学、保健政策論、看護と法規、社会福祉・社会保障論である。これらの授業は将来の地域看護学の学習内容と密接に関連している。

健康科学は看護教育の基礎となる専門基礎教育から構成されている。その授業科目等は、死生学、人体機能形態学、認知・行動情報生理学、代謝栄養学、薬剤療養学、免疫学特論、人間工学、基礎保健学、国際保健医療等である。

履修状況

(医学科)

自然科学

自然科学入門(物理学・化学・生物学)

高校時代に履修していないか、入試科目として

選択していない者に対する、復習・補完的意味を持つものであり3科目のうちから1科目選択必修である。

物理学 他9科目

1年次に8科目、2年次に1科目が配当されており、必修である。

現代物理学の応用他7科目

2年次に配当されており、各科目1単位であり4科目以上を選択する。

総合人間学

人文社会科学及びコミュニケーション学

哲学・倫理学他12科目

1、2年次に配当されており、4科目以上を選択する。

英語 他4科目

1、2年次に配当されており、必修である。

心身科学

基礎スポーツ医学、基礎スポーツ医学実習

1年次に配当されており、必修である。

医学心理学

2年次に配当されており、必修である。

早期医学

医学概論他3科目

1、2年次に配当されており、必修である。

(看護学科)

支持科目

人間科学

人間の生物学他12科目

1・2・3年次に配当されており、8単位以上(4科目以上)選択必修である。

外国語

英語、看護英語は必修である。

英会話 他3科目は自由科目である。

保健体育

保健体育実技は1年次に配当されており必修である。

環境保健科学

現代の国際政治他6科目が選択科目として1・2年次に配当されている。

環境生態学他5科目が必修科目として1・2・3年次に配当されている。

学力の多様化に関する対応策

入学時の学生の基礎学力のアンバランスの是正のため補習のカリキュラムとして自然科学入門を開講し、高等学校の履修内容を講義している(医学科1年次生) また他大学で単位を修得している学生については、認定試験を行った後、上限を設けて単位認定を行い、学生の時間の有効利用を図っている。

(3) 教育方法

基本方針

従来の方針に加え新カリキュラムでは基本構想として

- 1 課題探究能力の育成を目指した教育体制の構築
 - 2 全人的医療と社会的使命を実現できる医療人・研究者の養成を目指した教育体制の構築
- を掲げ、具体的方策として以下を実施している。

- (1) 教養教育は学年進行にあわせて適宜実施する。
- (2) 早期体験学習を開講し、医療・保健・福祉・看護・介護にわたり包括的に実施する。
- (3) 可能なものは少人数教育を実施する。
- (4) 統合型講義（生命科学コース）を導入する。

授業形態

従来は講義、実験、実習に加えて、主に専門教育で行われていた演習やゼミナールを加えている。

さらに、新カリキュラムでは少人数教育を推進している。質的な授業効率を高めるために、英語教育では、会話を中心としたグループワークを、早期体験学習ではチュートリアル教育を取り入れている。また、アーリーイクスポ-ジャーの一環として病院内や保健所の見学、臨地実習、模擬患者と接する体験（ロールプレイ）等を取り入れている。

学習指導法

集団に対する教育としては従来から行われている講義形式があるが、学習効果や効率を考慮し、できるところから少人数教育を導入している（語学や基礎スポーツ医学、自然科学実習等）。

早期体験学習ではチュートリアル教育を行っており、1名のチューターに約6名の学生がつき、自学自習形式の課題探究型教育をチューターが援助する学習形式で行っている。

課題実習では各教室や講座に少人数の学生が配属され、ほぼ学生対教員がマンツーマンで指導を行っている。日常の研究活動を直接に手をとって指導できるような体制を構築している。

学習環境

講義実習棟

講義室	8 部屋	812m ²	637 席
実験室	3 部屋	364m ²	
実習室	5 部屋	1,626m ²	

臨床講義棟

講義室	2 部屋	481m ²	404 席
-----	------	-------------------	-------

看護学科教育研究棟

講義室	4 部屋	404m ²	312 席
実習室	5 部屋	1,148m ²	

福利厚生施設

大学会館

演習室(1) 61m²

パソコン19台 自学自習用

8時30分から19時まで利用可能

演習室(2) 158m²

72席 自学自習用

8時30分から19時まで利用可能

看護学科教育研究棟

自習室 62m² 24席 自学自習用

8時30分から19時まで利用可能

マルチメディア自習室 71m²

パソコン10台 自学自習用

8時30分から19時まで利用可

図書館 24時間利用可能

蔵書数122,279冊（製本雑誌を含む）

プール 25m 8コース

大学食堂 192席（食堂）34席（喫茶）

体育館 910m²

陸上グラウンド 98.52m × 72.0m（400mトラック有）

野球場 両翼 90.3m センター106m

成績評価法

成績の評価は評点及び評語をもって表し、優（100点から80点）、良（79点から70点）、可（69点から60点）、を合格、不可（59点から0点）を不合格とする。一部実習等は評点及び評語によらず了と評価することができる。

評価法は各教員・授業科目及び形態によって異なるが、出席、レポート、受講感想文、課題作品、発表実習態度、演習、小テスト、定期筆記試験、口頭試験等を参考に最終評価を行っている。

5 変遷及び今後の方向

変遷

本学は昭和53年に単科医科大学として開学した。開学当初より、従来の大学にある教養課程と専門課程の切れ目がないことより、6年一貫の医学教育という方針がたてられ、教養教育と専門教育を有機的に融合した教育が行われてきた。この原則は平成8年に併設された看護学科でも踏襲されている。

しかし、時代の要請によって、これまで、2度のカリキュラムの大改訂を行っている。

第1回は平成3年度の大学設置基準の大綱化に伴う平成5年度のカリキュラム改訂である。

この時の改訂では、教養教育と専門教育のより有機的な連携が中心テーマとして行われた。

また講義を中心とした従来型の授業形式に加え、演習、実習、実験を増やし、少人数の教育方式を導入した。

さらにアーリーイクスポージャーの概念をカリキュラムに取り入れ、教養教育の時期にも医学、医療、医学研究の実際に触れさせるような工夫が行われた。

しかし、教養教育は1年間で修了し、基礎医学系の教育が2年次から開始される結果となった。

一方、平成10年度において学年進行の完了を見たことも相まって、平成12年度に大幅なカリキュラム改訂が行われた。

今回のカリキュラムの変更点は、前回の改訂の問題点を明らかにし、それをどのように解決していくかを中心に行われた。

まず、教養教育が削減されたことに伴う問題点解決の手段として、1年に短縮された教養教育を1年半にもどした。さらに人間性豊かな教養人の育成という点から従来の1大学で教養教育を行うという枠組みをはずし、他大学との単位互換制や、放送大学との単位認定制を導入した。また課題探究能力を養成する自学自習の学習方法を身につけるためのチュートリアル教育を導入した。

アーリーイクスポージャーを更に進めて、早期に医療現場にふれる早期体験学習を導入し、多くの若手の臨床医学系の教員の参加をえて、少人数教育が行われている。また時代が要請している保健、福祉、看護、介護を医療分野に取り組み講義を新設した。また国際化や情報化に対応するカリキュラムを作成している。

方向

本学における教育の目的は人間性豊かな、良き医療人・研究者の養成である。

これらの目的達成のために、

- 1 目標設定を行い、その達成をチェックする自己点検評価システムの充実をはかる。
- 2 教育の実施体制の整備を更に進め、より効率的な教育を全学的に行える組織を設置する。
- 3 新しい授業形態を今まで以上に導入し、効率的な教育方法を、学内で開発する。
- 4 ファカルティ・ディベロップメントを充実させる。
- 5 コアカリキュラムの導入を図り、リクワイヤードミニマムの教育を推進する。
- 6 授業評価の仕組みを充実させる。またその評価結果をフィードバックさせるシステム作りを行う。
- 7 課題に対する統合型教育を導入し、オムニバス形式の講義を行う。
- 8 自己開発の能力を育成する教育方法の開発を行う。ここでいう自己開発とは、自学自習、課題実習、自己表現(討論、口頭及び論文発表)、生涯学習をいい、この目標設定のため、シラバスをさらに充実させる。
- 9 時代の要請に対応できるような教育項目を作成充実させる。これらにはIT関連技術、保健、福祉、介護等を含む。
- 10 国際的な医療人・研究者の養成のため、教育カリキュラムをさらに充実させる。外国語能力及び異文化に対する理解を深めるような授業内容を検討する。
- 11 ボランティア活動を取り入れた教育カリキュラムの新設及び新設のためのシステム作りを行う。
これらの目標を確実に達成していくことで、21世紀に活躍できる医療人・研究者の育成に貢献できる教育を推進する。

4-2-5 一般教養に関する教育の授業科目の履修状況

(1) 平成12年度

授業科目区分名	最小値 (人)	平均値 (人)	最大値 (人)
自然科学	30	78.8	91
人文社会科学(総合)	13	40	72
コミュニケーション学(総合)	74	84.1	91
心身科学	91	91	91
早期医学	90	90.5	91
人間科学(支持科目)	10	35.3	57
外国語(支持科目)	9	34.5	62
保健体育(支持科目)	62	62	62

(2) 平成12年度

<1> 分母を履修登録した学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
自然科学	91	97.1	100
人文社会科学(総合)	60.9	82.8	100
コミュニケーション学(総合)	82.4	95.6	100
心身科学	94.5	96.7	98.9
早期医学	98.9	99.4	100
人間科学(支持科目)	75.5	91.1	100
外国語(支持科目)	84.1	92.3	100
保健体育(支持科目)	95.2	95.2	95.2

<2> 分母を成績判定を行った学生数とした場合>

授業科目区分名	最小値 (%)	平均値 (%)	最大値 (%)
自然科学	96.4	98.7	100
人文社会科学(総合)	85.9	95	100
コミュニケーション学(総合)	94	99.2	100
心身科学	95.6	97.8	100
早期医学	100	100	100
人間科学(支持科目)	90	98.8	100
外国語(支持科目)	100	100	100
保健体育(支持科目)	100	100	100

(3) 平成12年度

平均値 (単位)	最大値 (単位)
39.1	71

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

人数区分	授業科目区分名	授業科目名
1. 20名以下		
2. 21名以上 ~50名以下		
3. 51名以上 ~100名以下		
4. 100名超		

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1)

1

・「2」を選択した場合

授業科目区分名

・「3」を選択した場合

学部名	授業科目区分名

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--

(2)

1. 2. 3. 4. 5. 6

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--

(3)

4

(4)

1. 3

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

--